

「自分のくらしを見つめて」

武蔵ヶ丘北小学校 5年 山田 秀瑚



自分のことを見つめ直した「ミナマタ」学習

武蔵ヶ丘中学校 1年 霧田 鈴七(現在2年生)

人権啓発標語

気付いてね 笑顔の後ろの SOS

ぼくが、「水俣に学ぶ肥後っ子教室」で語り部の緒方正実さんから学んだことは、「勇気を出してできるだけ早くあやまることの大切さ」です。早くあやまらないともやします。ぼくたちが苦しい思いをしないように、緒方さんはこのことを教えてくださったんだと思います。ぼくも、だれかに悪いことをしてしまったら、自分からできるだけ早く「ごめんなさい」とあやまれる勇気を持ちたいです。

ほかに、心に残った言葉は、「出来事と正面から向き合う」です。出来事と正面から向き合えば、もやもやしていることも解決でき、

先生から

水俣に行き、語り部の緒方正実さんの言葉をしっかりと受け止め、そして自分自身のことを見つめて正直に綴っていった秀瑚さんです。学年の人権集会の中でも、この思いを伝えてくれました。自分もみんなも安心して過ごせるようにと一歩を踏み出した秀瑚さんの姿が、周りのなかまにも広がっています。

人の言葉を確かめないで行動することは、差別や偏見につながると思います。これからは、人の言葉を聞いた時、それが正しいことなのか確かめてから、行動していきたいです。それと、自分じゃなくても、いじめ、差別、偏見、かげ口を言っている人がいたら、できたら注意して、できなかったら先生や友達などの身の回りの人に言って助けを求めようと思いました。そうすると、まちがったことを言っている人、している人も少なくなっていくと思います。みんなが安心して過ごせる学級、学校、世の中にしていきたいです。

「教育の機会の確保」～県立夜間中学2024年春開校へ～

文部科学省によると、年間30日以上欠席した不登校の子どもは、2017年度14万4,031人、18年度16万4,528人、19年度18万1,272人、20年度は過去最多の19万6,172人となっています。このような状況の中、平成28(2016)年に「教育機会確保法」という法律が施行されています。そこには不登校児童生徒に対する教育の機会を確保すること、義務教育の段階における教育を十分に受けていない者などに対する支援を行うこととされています。県内でも20年度、不登校の子どもは過去10年で最多の2,996人でした。文部科学省は各県に夜間中学校の設置を推進していましたが、県でも2024年4月に熊本市内中央区の県立湧心館高校内に「県立夜間中学」の設置が決まりました。

9月8日はユネスコ(国連教育科学文化機関)が制定した「国際識字デー」です。世界には貧困、差別、紛争などさまざまな理由で教育を受けられない人たちがたくさんいます。「識字」(日常生活で用いられる簡単で短い文章を理解して、読み書きができる能力、奪われた文字を取り戻すことによる生き方を取り戻す活動)は非常に重要であると国連は訴えています。県立夜間中学設置の基本方針では入学対象は県内在住の15歳以上で国籍は問われないことになっています。さまざまな理由で教育を受けられない人の学び直し場として活用していただきたいと思います。すべての人に教育の機会が保障される社会をつくっていきましょう。



学校だより 52

武蔵ヶ丘北小学校



あいさつ 笑顔 思いやり
すすんで学ぶ 武北っ子

令和4年度、本校の教育目標です。高学年は廊下ですれ違ふとき立ち止まってあいさつを行う児童が増えてきました。その姿を見て中学年、低学年も先生より先にあいさつできる児童も見られるようになりました。

しかし、まだ朝の登校時のあいさつは、これから頑張っていきたいところです。そこで、委員会や学年ごとに校門そばに並んで「あいさつ運動」を行っています。まだ、始めたばかりですが、教育目標の達成に向けて、全職員、児童とともに力を合わせて取り組んでいるところです。



あいさつ運動に取り組む児童

きくよう文芸 7月



菊陽句会報

盛りなる松葉ぼたんの笑む真昼
ビル街や茅の輪くぐりの昼休み
珍客や蛇口の下に小蟹かな
菜箸の味は掛け算夏料理
切れぬ刃もパキッと切れし西瓜かな
ウクライナの空爆斯くや雷激し
叩き打つ雨にひるまぬ夏野菜

紫藤 祥子
曾我 育代
曾我トモ子
緒方チエ子
米山るみ子
吉田 幸子
木村 信子

おのづから揺るる心の月見草
紫陽花やその日その日を咲きてをり
寡黙なる庭師の背に夏旺ん
朝焼や光を放つ野菜畑
戸にも出でよほら朝焼の詩
百日紅遺影の部屋に影を入れ

田中 郁子
寺田千代子
財津 早雪
原野レイ子
北川しんじ
佐藤 澄世

短歌会

生ひ繁る阿蘇の原野にノアザミの薄紅頭を競ひ立ちをり
いつもなら終わっているがミニトマトの収穫続く六月過ぎても
真夜中の数千万の雨の音屋根に激しく梅雨のあめ降る
四日目を迎える連は散り初めてただ一枚を残しておりぬ
部屋出でてしばし佇む前庭は木々の緑が重なりて照る
青空に飛び散るしぶきは煌めいて掛け声響くプールに子等の
その滴顔にかかって惜しむ子か真一文字にセミは飛びゆく

有久 賢治
梅田 國雄
佐藤せい子
田中 成美
中村トシエ
馬場 礼子
松本 東亜